

ヒメシロモンドクガ

春から秋に樹木や草本の葉を食べる毛虫（幼虫）。最大長約40mm。体は地色が黒か灰色で、オレンジ色の模様がある。頭の両側と尾端背面に黒い毛束がある。成長すると背中中央あたりに白い歯ブラシ状の毛束が生ずる。

リンゴなどでは害虫とされている。庭の低木でときどき発生する。幼虫に触ると皮膚に毛が刺さることがある。



1. 中齢幼虫，体長12mm. 1993/8/10.

新得町，ベルコーザカンバ.



2. 終齢幼虫，体長30mm. 1993/8/23.

1の幼虫を飼育.



3. 雌成虫，体長18mm. 1の幼虫を飼育.



4. 雄成虫，体長12mm. 1990.

新得町，シラカンバにいた幼虫を飼育.

【学名】 *Orgyia thyellina*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ドクガ科 (Lymantridae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；朝鮮半島，シベリア南東部，台湾.

【特徴】 幼虫は終齢で体長30~40mm. 色彩はやや個体変異があり，また，成長にともない変化する.

アカモンドクガの幼虫に似るが，背面両側のオレンジ色の線上に羽毛状の白い毛を持たないことにより区別できる.

【生態】

宿主：様々な広葉樹，カンバ，ベニシタン，クレマチスなど。ダイズなどの野菜にもつく。

成虫は暖地では年3回，6月，8月，10~11月に出現し，1~2齢幼虫で越冬という。

北海道では年2回発生。卵で越冬。幼虫は6月と8月頃に多くみられる。幼虫は葉の間などで繭を作り蛹になる。成虫は初夏と秋に出現する。雌成虫は繭や繭に付着している枯れ葉の表面に数十から数百の卵を並べて産みつける。

【被害と防除】

庭などでは普通にみられ、毎年、同じ木や場所で発生する傾向がある。多発した例は知られていないが、単木的に食害が目立つことがある。

落葉期に卵をみつけ取り除いて駆除する。卵は繭をくるんでいる枯れ葉の表面に産み付けられるので、枯れ葉がまとまって付いているところを探せばよい。繭に付いている毛が皮膚に刺さることがあるので、ゴム手袋をすること。庭木のケムシ類用の農薬としては、レスメトリンのエアゾル（スプレー）がある。農薬は取り扱い説明書にしたがって使用し、通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

【文献】

- 1958. 江崎悌三ほか. 原色日本蛾類図鑑（下）：I-V, 1-303, pls 65-136. 保育社, 大阪.
- 1965. 一色周知, 監修. 原色日本蛾類幼虫図鑑（上）：1-238, pls 1-60. 保育社, 大阪.
- 1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.
- 1987. 杉敏郎, 編集. 日本産蛾類生態図鑑：1-453, pls 1-120. 講談社, 東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ヒメシロモンドクガ dokuga/himesiro/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991/3/17-2001/4/12.

2yochu1.jpg, 2yochu2.jpg, 2seichu.jpg, 1seichu.jpg

「写真1～3」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1990-1993.